

# 水戸教育事務所だより

すべての子どもたちのために 学校のために 市町村教育委員会のために

第25号

2025年3月24日

## 重点課題 働き方改革の推進 「働きやすさ」と「働きがい」について ～先進的な取組と4年間の成果～



2月26日（水）に第3回働き方改革推進アクション会議が、各市町村の代表校長と教育委員会担当者の皆様にご参会いただき、本事務所にて開催されました。

今回は、講師として、茨城県教育庁学校教育部教育改革課 人事制度改革管理主事 仲田郁夫様、守谷市教育委員会教育指導課長 村松静様をお迎えし、ご講話をいただきました。

仲田様からは、今年度開催された働き方改革ブレイクスルー会議を経て、学校における教職員の勤務環境整備の方向性として、「①業務改善の推進、②働きやすい職場に向けた体制づくり、③働きがいの創出」の3点についてお話しがありました。その中で大切なのは、それぞれの取組の主体となる学校と市町村教育委員会が連携した推進です。また、これまでの成果として、時間外在校時間平均の縮減、個別対応により80時間超者の減少などがあげられます。その一方で、長時間勤務が常態化している学校や教職員が少数ながら存在しているなど、課題も見られます。

村松様にはオンラインでご講話いただき、「形を変えて、意識を変える」というテーマのもと、守谷市教育委員会が取り組んできた教育改革（①守谷型カリキュラム・マネジメント、②部活動改革、③いじめ対応策、④教科専科・学習支援ティーチャー等、⑤ICT等環境整備）についてご説明がありました。①については5時間授業をいかに実施していくか、市内の各学校の教務主任と市教委が話し合いを重ね、その結果、小学校は6時間授業なしで週3日の5時間授業、中学校は5時間授業が週3日・6時間授業が週2日という教育課程を編成し実施しています。②についても、①と連動し、1コマ50分という捉えで、5時間授業日は2コマの部活動時間、6時間授業日は1コマの部活動時間で取り組み、16時50分には完全下校となります。先生方や地域の声としては、「教材研究の時間を確保できるようになった」「気持ちにゆとりができた」「退勤時刻が早くなった」「公園に子どもの声が戻った」などがあります。

また、ご参会いただいた皆様には4つのグループに分かれ、「『働きやすさ』と『働きがい』の両立について」をテーマにご協議いただきました。事前のアンケートを含め、その一端について紹介します。

- 80時間超の教職員一人一人の意識改革
- 人員を増やし、負担を軽減、多様な対応ができる環境をつくる
  - 教師が本来担うべき業務に邁進、自分の専門分野に従事、容易に休暇取得、心理面のケア
- 仕事の効率化（校務DX、アイデアの共有など）
- 行政の協力、学校・教職員・教育委員会で議論 → 学校や教師の役割の再確認
- 職場内でのコミュニケーションの活性化 → 職場の雰囲気をよくする
- 授業時間、行事等の見直し → 時間的、精神的に余裕もてる職場づくり
- 部活動の完全地域移行
- 働く側の視点だけでなく、「子どもの成長を支援する」「親と一緒に子どもを育てる」といった視点も忘れてはならない



令和3年度より始まった働き方改革推進アクション会議ですが、本年度で4年目が終了します。各学校においては働き方改革によって、教職員の働き方の意識が変わり、時間外勤務時間が縮減するなど、一定の成果を上げることができました。ただ、学校単位の取組には限界があります。守谷市の先進的な取組を参考にしつつ、引き続き、学校と市町村教育委員会が連携し、教職員の声や学校の実態に合った改革の推進をお願いします。